



333 East 47th Street
New York, NY 10017
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

Media Contacts:

Allison Rodman

arodman@japansociety.org, 212-715-1205

Emi Marica

emarica@japansociety.org, 212-715-1283

ジャパン・ソサエティー (JS) ギャラリー

展覧会

「棟方志功 一板極道一」

Shikō Munakata: A Way of Seeing

展示期間：2021年12月10日(金)～2022年3月20日(日)

プレスプレビュー：2021年12月9日(木) 午前10時00分～午後3時00分



Shikō Munakata, *Yokkaichi: Kombinat (Factory)*, from the *Tōkaidō Series*, 1964. Photograph by Nicholas Knight.

リスティング・インフォメーション

会場： ジャパン・ソサエティー (JS) ギャラリー
 333 East 47th Street (Between First and Second Avenues)
 New York, NY 10017

展示期間： 2021 年 12 月 10 日(金)～2022 年 3 月 22 日(日)

開館時間： 木曜日～日曜日：正午～午後 6 時
JS 会員限定開館時間： 木曜日、金曜日：正午～午後 1 時

入場料： 一般 12 ドル、シニア・学生 10 ドル
 JS 会員・16 歳以下・障がい者および付添者 無料

チケット購入： ボックスオフィス 212-715-1258

ご来館の皆様と安心のためガイドラインを[こちら](#)よりご確認ください。

ジャパン・ソサエティー (JS) ・ギャラリーは、著名な日本人美術家である棟方志功 (1903-1975) の 100 点に及ぶ作品を紹介する展覧会「[棟方志功—板極道—](#)」(むなかたしこう—ばんごくどう—)を開催いたします。本展は、米国最大の棟方コレクションである弊会の貴重な所蔵品をもとに構成されており、「世界のムナカタ」と名をとどろかせた木板画だけでなく、書道、墨絵、水彩画、リトグラフや陶芸など幅広い作品を紹介するとともに、20 世紀を代表する想像力豊かな芸術家である棟方の魅力に今一度焦点を当てる展覧会となります。

本展覧会の代表作品の一つとして、東京と京都を結ぶ東海道各所の風景を描いたカラーとモノクロの 61 点の板画作品《東海道棟方板画》(1964 年)の全作品を展示します。棟方は 19 世紀の浮世絵師、歌川広重 (1797-1858) が《東海道五十三次》で描いた東海道を大阪まで延長し、高度経済成長期に変化を遂げ続ける各所の風景を見事に捉えました。本シリーズ全作品公開は、1965 年以来全米初となります。

20 世紀の「創作版画」の流れを汲み、同時代の民藝運動指導者たちにも認められた棟方は、日本民話、仏教、西洋の文学や詩、自然のモチーフなど、さまざまなものからインスピレーションを得て、様々な表現法で創作活動を行い、伝統的な浮世絵のサイズを超えた木板全体に広がる板画(ばんが／版画)を制作しました。そして、スイスのルガノ第 2 回国際版画展 (1952 年)、第 3 回サンパウロ・ビエンナーレ (1955 年)、第 28 回ヴェネツィア・ビエンナーレ

(1956 年) など、国際的に高く評価されます。本展では、代表作である木板画に加えて、これまであまり知られていなかった書道作品や絵画なども紹介します。



Shikō Munakata, *Mukō-machi: Crossing Point of Highways*, from the *Tōkaidō Series*, 1964 (detail). Photograph by Nicholas Knight.

1959 年、棟方は弊会の「プリント・アーティスト・プログラム」フェローとしてニューヨークに渡ります。本プログラムは草間彌生などのアーティストを招き、文化的な交流と国際的な対話を目的としたものでした。本展では、初渡米を記念して弊会のために制作された作品や、ニューヨークで制作された作品も展示されます。6 カ月に渡る米国滞在期間中、棟方は戦後の日本国憲法制定に貢献した女性の権利擁護者であるベアテ・シロタ・ゴードン（1923-2014）を伴い、ニューヨークを拠点に全米で講演や展覧会を開催しました。ゴードンは弊会舞台公演部初代ディレクターであり、棟方の通訳を務め、生涯の友となりました。その後、棟方は1965年に弊会の招聘で再びニューヨークに滞在し、その際に現在の弊会棟方コレクションの核となる作品の多くを寄贈しました。その他の重要な作品は、1971 年のジャパン・ハウス開設時に 3 代目ジョン・D・ロックフェラー夫人から弊会に寄贈されたものです。

本展では、仏教の影響、憧れであったフィンセント・ファン・ゴッホからインスピレーションを受けたひまわり、また、フクロウや鷹など、作品に繰り返し登場するモチーフをテーマにした作品も展示されます。そして、弊会が所蔵する貴重な棟方の代表作である《二菩薩釈迦十大弟子》全巻セットの展示に加えて、第二次世界大戦中、疎開によって戦火を逃れた同作品のオ

オリジナル板木 2 点や作家の私物が米国初公開となります。これらの作品は棟方志功記念館、研究者であり棟方の実孫でもある石井頼子氏、そしてゴードン家の協力を得て展示されます。

展覧会のデザインは、ニューヨークとバルセロナを拠点に活動する建築事務所、MAIO が担当し、作品そのものを展示空間で生かし、鑑賞体験をサポートする新鮮なディスプレイを実現しています。MAIO は次のように述べています「棟方志功氏は、極度に近視だったため、木板からわずか数センチの距離で作品を制作しました。特定の箇所や細部に焦点を当てていることで作品の触覚的な性質をさらに強めています。」

JS が主催する本展は、JS ギャラリー部キュレーター、ティファニー・ランバーがキュレーションを務め、棟方志功記念館、石井頼子氏よりご協力をいただいております。

【棟方志功】



Photo of Munakata, 1967: © Laura Beaujon

1903 年青森県に生まれる。白黒板画や、自由でスケッチのような作風で知られる木板画の世界的巨匠。独学で油絵の道を歩み始めるが、1926 年に川上澄生の版画を見て感激し、板画制作に転向する。棟方は民藝運動の指導者らから知遇を受け、創作版画運動との関わりも深い。1937 年以降、仏教をモチーフとした作品を多く発表する。第二次世界大戦中も制作活動が続け、スイスのルガノ第 2 回国際版画展（1952 年）、第 3 回サンパウロ・ビエンナーレ（1955 年）、第 28 回ヴェネツィア・ビエンナーレ（1956 年）など、国際展示会やビエンナーレで受賞された。1959 年にはジャパン・ソサエティー（JS）の招待で渡米し、10 ヶ月に渡り米国で講演や

展示会を開催。その後も名誉勲章（1963 年）、朝日新聞賞（1964 年）、文化勲章（1970 年）等、栄誉ある賞を受賞する。

【MAIO】



© José Hevia

バルセロナとニューヨークを拠点とする Maria Charneco、Alfredo Lérída、Guillermo López、Anna Puigjaner からなる建築事務所。時と共に変化する空間システムをデザインし、プロジェクトを通して変化する複雑な日常生活を受け入れつつも、レジリエンス、妥協点を見出し明確な答えを建築を通して表現する。

作品は『Domus』『AIT』『Volume』『Blueprint』『A10』『Detail』などの雑誌に掲載され、ニューヨーク近代美術館、グッゲンハイム・ビルバオ美術館、シカゴ美術館などで展示されている。MAIO は、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展 2016 のスペイン・パビリオン金獅子賞を受賞したほか、シカゴ・アーキテクチャー・ビエンナーレ（2015 年版と 2017 年版）にも参加、ヴェネツィア・ビエンナーレ 2014 では、「SPACE CAVIAR」と「DPR-Barcelona」とともに「Weekend Specia」を共同でキュレーション。

メトロポリタン美術館、バービカン・センター、コロンビア大学建築・計画・保存大学院、RIBA、カリフォルニア大学バークレー校、イエール建築学校、ピート・ズワルト・インスティテュートなどで講義の経験を持つ。

＊「棟方志功 一板極道」展は、以下の財団・基金、及び個人より多大なご支援・協賛をいただいております。

Shikō Munakata: A Way of Seeing is supported, in part, by the E. Rhodes and Leona B. Carpenter Foundation, the W.L.S. Spencer Foundation, and The American Chai Trust.

Exhibitions and Arts & Culture Lecture Programs at Japan Society are made possible, in part, by the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund, the Mary Griggs Burke Endowment Fund established by the Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation, Masako H. Shinn, Peggy and Dick Danziger, Raphael and Jane Bernstein, Friends of the Gallery, and an anonymous donor. Support for Arts & Culture Lecture Programs is provided, in part, by the Sandy Heck Lecture Fund. Transportation assistance is provided by Japan Airlines and American Airlines, the exclusive Japanese and U.S. airline sponsors for Japan Society gallery exhibitions.

＊ ＊ ＊

プレスレビュー・取材申し込み

プレスレビュー・取材をご希望の方は、プレス担当：マリカ/ロッドマンまでEメールで (EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込み下さい。

プレスレビュー日時: 12月9日午前10時00分~午後3時00分 (30分毎の人数制限有)
入館の際にはマスクの着用、ワクチン接種証明書と写真付き証明書のご提示をお願いしております。

＊ ＊ ＊

JSギャラリーについて

当ギャラリーは、1971年の設立以来、日本の芸術と文化を世界に向けて発信し続けている米国でも有数の施設です。当ギャラリーは、画期的な展覧会や関連プログラムを通じて、世界の芸術遺産と言える日本文化に対する幅広い理解と評価を深め、日本がアジア、米国、ラテンアメリカ、ヨーロッパと共有する芸術的な相互関係を探り、古典から現代までの多様性に富む日本の美術を紹介しています。

JSについて

JS は、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々につなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されている JS 本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907 年以来、JS では「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

JS は今年、ニューヨークのランドマークである本館設立 50 周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JS が文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook：facebook.com/japansociety

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語）／ [@js_desu](https://twitter.com/js_desu)

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

住所 333 East 47th Street (1Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト

www.japansociety.org

###